

人文学部の
今を伝える

人文ニュース<アゴラ>

48巻1号
山形大学人文学部
2016.4.4

Agora

“AGORA”とは、ギリシャ語で“広場”という意味です。

写真で教員の研究を
楽しく紹介するコーナー

ふぁんたすていっく!



2月6日開催のトークセッション「恋愛を哲学する」で柿並先生と盛りあがる筆者(右)。



フランス留学中に私が住んでいた家、ではなく
フランス喜劇の殿堂コメディ・フランセーズです。

豪華絢爛なコメディ・フランセーズの内部。
『ユビュ王』のほかに、モリエールなどが
頻繁に上演されます。



フランスで共著の
論文集も出しました。



みなさまこんにちは。新参者にも出番がまわってまいりました。平たく述べますと、わたくし「フランス屋」でございます。フランス語で書かれた本を読み、あるいは資料を調べ、その分析成果を日本やフランス語圏で発表する。と、この繰り返しを生業としております。研究会などのまじめな場では、フランス十九世紀末の文学と芸術が専門、と自己紹介することになっています。

学生時代は、早々に御茶ノ水の駅前留学(アテネ・フランセ)を済ませたのち、フランス政府給費留学生としてパリに留学して、アルフレッド・ジャリ(1873-1907)という作家を研究しました。ジャリは、スラングと造語を駆使した戯曲『ユビュ王』(1896)を発表して、大スキャンダルを巻き起こした作家です。その独特な言語感覚と、旧来の文学をこっぱみじんに破壊してしまうような実験的精神によって、二十世紀後半の

不条理文学の先駆者なんて言われています。ですが昨今ではその『ユビュ王』も、フランスでもっとも権威ある「コメディ・フランセーズ」劇場の定期演目に加わり、すっかり古典の風格をまどってしまいました。うれしいやら、悲しいやら。フランスで博士号を取得後、最近ではフランスで築いた人脈のおかげで、フランス語版『ジャリ全集』の編集にも携わらせてもらいました。やはり「人とのつながり」が大事なんですね。けれども、私がユゴーやブルースト等の大作家の研究者だったら、このような経験は到底できなかったと思います。つまり研究は隙間産業的にやってナンボなのです。

では最後に、山で担当している講義を紹介させていただきます。フランス語講読の授業では、去年は漫画(バンド・デシネ)の発明者ロドルフ・テプフェールの作品を読みました。ただ訳読をするだけでなく、イメージとテキストの関係を分析したり、文化的背景についても調べてきてもらいましたよ。フランス文化論では、近現代の前衛文化について、写真や映像をたくさん使いながら講義しています。昨年は、フランスのアヴァンギャルド作家に「中二病」の症例を見出す、というテーマで臨んだところ、教室にサブカルチャー好きが集結しました。国際文化学演習では、ドイツ語の摂津先生とペアを組んで、ヨーロッパの移民・難民論に取り組みました。実は現在のフランスが抱えている問題って、けっこう根が深く、十九世紀くらいまでさかのぼって考えると、背景や解決すべきポイントが透けて見えてきたりするのですよ。

人間文化学科 講師 合田陽祐(フランス文学・芸術)

山形大学人文学部
facebookページ
ぜひご覧ください。



人文学部 @LINE開設しました!

特集 学部長インタビュー ～新任のごあいさつ～

——学部長就任おめでとうございます。まずは新学部長としての抱負を聞かせてください。

祝福の言葉をありがとうございます。抱負といっても、まだ見習いのようなものですから、いまは学部内で起こる大小様々な問題についてひとつひとつ対応を考えることで頭がいっぱいです。あえて言えば、いま学部が取り組んでいる改組の仕事を仕上げて、新組織へと円滑に移行させることが、私の第一の任務だと考えています。

——改組ということですが、これまでのように文化や歴史とか、法律、経済の勉強はできるのですか？

もちろんです。この学部で行う教育の基本は伝統的な人文学や社会科学にあります。今後も、人間の文化、歴史や法律、経済など、人文系の多様な分野への関心に応えられるよう、幅広く質の高い教育メニューを維持していかなければなりません。

ただ、そうした専門教育の成果が、卒業後に社会でどう生きるのかについては、昔から繰り返し問いかけがなされてきました。人文での教育は、その拠点となる東北地域で活躍できる人材の育成にどれだけ貢献できているのか。もちろん大きく貢献していると確信しています。経済や法律の知識を踏まえて地域課題と取り組む姿勢を身につけた人材は、地元の自治体や企業にとっても重要でしょうし、商品を成立させる文化的意味を的確に理解して企画や広告に生かすためには、文化や歴史についての素養が不可欠なはず。ただし人文系の教育の場合、その成果の現れ方は多様な形を取るため、「〇〇の授業を受けると□□の仕事につける」式の説明とはなじみません。ところが社会への貢献が問われるさいには、そうした単純すぎる説明方式ばかりが偏重されがちなのです。昨今報道されているように、今はこうしたあまりに性急とも思える要求が地方国立大の文系に対して集中的に向けられ、対応が求められている状況です。そのことの是非や背景については慎重に議論を続けていく必要があります。しかしその一方で、現在の教育の仕組みについて改善の余地がある部分については、この機会に直せるところは直して、学生の利益につなげられればと考えています。



人文学部長 清塚 邦彦

——具体的にどんなところが変わるのですか？

くわしくは確定してから公表します。ここでは、想定している2、3の課題にだけ触れておきましょう。

ひとつの課題は、地域で活躍できるグローバル人材の育成です。山形や宮城で暮らしていても仕事の面で海外とのつながりを無視できないのが昨今の社会状況です。人間文化学科にはすでに、5つのコースの1つとして「グローバル文化学コース」がありますが、今後は、語学科目の強化、海外研修・留学の機会拡大、文化学に加えて社会科学科目の充実、といった方向で教育機能の強化を検討しています。

もう一つ考えているのは、情報リテラシー教育の充実です。コンピュータやインターネットの扱い方については現在のカリキュラムでも必修科目で教えていますが、より踏み込んだデータ処理法や、統計学、社会調査法については、これまでは一部の学生しか学ぶ機会がありませんでした。卒業生を対象にしたアンケートを見ると、その点について在学時の教育に物足りなさを感じている様子が見受けられますので、できればその点も強化したいと思っています。

——先生の専門分野についてもすこし教えてください。

研究者としての専門分野は哲学です。学部や大学院修士の頃はフッサールやカントのような古典的な哲学者の研究に取り組んでいました。が、その後いろいろと模索の時期があって、初めて学術誌に載った論文は「固有名の意味」という半分言語学のような表題でした。哲学と言語学の境界領域にあたる言語哲学という分野が、私の研究者としての出発点です。山大に就職後は、言葉以外の記号にも関心が広がり、いまでは、各種の芸術作品の記号作用について考察する分析美学という分野が研究拠点になっています。

研究面で哲学以外の分野と多くの接点があることもあって、教育面では、情報学分野の教育にも加わっています。現在の教育組織で言うと、文化解釈学コースの哲学領域と、地域・人間コースの情報科学領域が私の担当場所です。

——2つのコースに関わるのは大変ではないですか。

確かに、時々頭が混乱します。ただ最近よく思うのですが、私の研究上の着想の多くは、学生の視線やコメントを意識しながら、境界領域の素材を授業へと組み立てていく日頃の授業準備の中から生まれてきました。そうした着想を発展させた結果の論文について、こんどは分野の異なる同僚からコメントをもらって励まされたり、それが共同研究に発展したりすることもありました。それは、この職場で過ごしてきた時間の中でいちばん楽しかった場面のひとつです。

人文学部が今後もそうした活発な相互啓発の場であり続けられるよう、新学部長として努力したいと思います。

——本日はありがとうございました。



ドキュメンタリー映画祭から、明治写真家菊池新学へ ——人文学部附属映像文化研究所の一年——

人文学部附属映像文化研究所所長
元木 幸一

設立から2年目の映像文化研究所は大忙しだった。

まず、10月には山形国際ドキュメンタリー映画祭で、台湾映画部門の独自企画を実施した。『映像は語る ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影』である。11本のドキュメンタリー映画を上映し、製作した監督トークが繰り広げられ、映画製作の秘密と台湾の現代テーマが明らかにされて行った。ジェンダー、障がい、震災、先住民族など、これらはすべて現代日本の抱える問題でもあるが、共通点もあれば、違いも際立った。そして最後に映画研究者たちによる講演会とシンポジウム。熱く鑑賞した台湾映画への批評を語り合う試みであった。映画監督4名、研究者5名を招待した大イベントだった。

映画祭に合わせて、招待した香港浸会大学教授葉月瑜先生が引率し映画祭に参加した映画学部門の学生約10名と、表象文化論の学生10名との交流も行われた。専門を同じくする海外の学生との討論会は人文学部では初めての企画だったのではないだろうか。

さらに、イタリア、ボローニャ大学教授ジャコモ・マンツォーリ氏(映画学)の講演会『映画におけるフィクションとノンフィクションの間』も開催した。ロベルト・ロッセリーニなどイタリアの映画を紹介しながら、記録と虚構の問題を考察され、終了後には学生・市民による活発な質疑応答が繰り広げられた。

以上は、ドキュメンタリー映画祭を契機に開かれた企画だった。やはり、山形はドキュメンタリー映画の町であり、その点で、映画研究部門は、山形との係わりなしにはありえないとの思いを深くした。

12月には山形映像文化研究部門の初めての企画として『没後100年

記念菊池新学シンポジウム』を開催した。東北で最初の写真館を創設した写真家菊池新学の記念年に合わせた企画だが、歴史家野口一雄氏、鶴岡アートフォーラム副館長の平井鉄寛氏をパネラーとし、山形美術館副館長岡部信幸氏をコメンテーターとして、地道な調査研究をもとにした詳細な研究発表の場となった。会場との熱心な議論が展開され、幕末から明治の写真家菊池新学についての有益な学問的業績となった。この成果は報告書として出版される。

このように、本研究所は、映画研究部門と山形映像文化研究部門を両輪として活発な研究活動と普及活動をこれからも繰り広げて行くことになる。



台湾の映画監督、映画研究者、その他

やまがた地域社会研究所のあゆみとこれから

人文学部附属やまがた地域社会研究所所長
國方 敬司

せんでした。

そこで、当研究所は、次のような目的に沿って設立されました。

- ①地域社会を対象とする活動や研究が特に進んでいる学部として少子高齢化の問題に総合的に取り組み、地域課題を解決する学部として広く認知されること。
- ②全学の地域関連事業に学部として対応していくための窓口となること。
- ③自治体や団体などが個別に抱える具体的課題に対し調査研究を実施し問題点を解明すること。

こうした目的に沿って当研究所は、人文学部が有する多様な有能な教員を地域社会に広く紹介し、人材探しに役に立つよう編集した『山形大学人文学部地域社会連携教員の活動』を2015年3月に創刊しました。このブックレットは山形新聞や日本経済新聞などでとりあげられ、注目されることとなりました。このようなことで、今般の地方創生にかかわって多くの自治体から教員の派遣要請があり、人文学部としては13の自治体で人口ビジョンや総合戦略の策定に協力しています。また、県などの各種審議会の委員推挙の要請に対応してきましたが、今、より一層協力するための組織強化を図っています。

当研究所はさらに各種のセミナー・勉強会を開催してきました。山形県副知事の細谷知行氏による「挫折から...」、県企画調整課長の佐々木昭喜氏の「県政の課題について」、あるいは丸屋豊二郎氏(福井県立大学地域経済研究所長)の「地方大学の地域貢献」といった講演やセミナーなどを開催するほか、地方創生に関する内部研修会などを開催してきました。最近も東北経済産業局課長の遠藤憲子氏を招いてのセミナー「地方創生～しごとづくり、ひとづくりの現場から～」を開催し自治体の関係者にもご参加いただいたところです。



遠藤憲子氏のセミナー

人文学部で体験しよう、新しい世界との出逢い！

大学の授業は、座って講義を聴くものと思いませんか？
授業以外にも、様々なプログラムや課外活動への参加を
実際に体験したみなさんの
人文学部では、様々な体験型・実習型の授業を開講しています。
通じて、新しい世界と出逢えるチャンスがたくさんあります。
声を聴いてみましょう！ ※記載順 ●氏名 ●学科 ●学年 ●コース ●所属ゼミ(法経政策学科生のみ) ●出身高校

亀橋 あかりさん
人間文化学科 3年
グローバル文化学コース
八戸北高校

異文化間コミュニケーションⅠ

去年の8月29日から2週間滞在した台北では、台湾師範大学のみなさんに調査を手伝っていたとき、素敵な思い出ができました。2月には、今度は師大生が山大にやて来ます。山形をめぐって知って、楽しんで、夏の間返しかてきたらいいなと思っています。

佐藤 大哉さん
法経政策学科 3年
法律コース
労働法演習(阿部ゼミ)
山形中央高校

ゼミ合同合宿

昨年10月31日から11月1日、岩手県の花巻市で行われた「岩手・福島・弘前・成蹊・山形の5大学による合同ゼミ合宿」に参加しました。参加者全員が1級検定も取得し、私は最優秀に選ばれました。発表に向けて、直前の1週間は毎日ゼミ集まりをする準備等大変でしたが、発表に向けて自分達の考え、調査、工夫、学びなどを何回かの経験にのり、発表の結果に表れたこと、学びの楽しさを感じることができました。ゼミ合同合宿は、堅苦しい発表だけでなく、他大学の交流も行われ、交友を広げることができました。楽しいだけでなく、勉強のやりがいも感じ合宿合宿最高です。

地域づくり特別演習

私は2年次の前期に「地域づくり特別演習(Ⅱ)」という科目の一環として、山形市内で障がい者の就労支援と行っているNPOで研修をさせていただきました。そこで活動を通して、社会におけるNPOの重要性等を学ぶことができました。貴重な経験をすることができた科目ですのでぜひ履習してみてください。

石川 凜さん
法経政策学科 2年
法律コース
憲法演習Ⅰ(中島ゼミ)
湯沢高校

長谷 和軌さん
法経政策学科 1年
公共政策コース
泉山高校

模擬裁判実行委員会

私は模擬裁判実行委員会、通称「もきさい」に所属しています。一般の人に法律を伝えたいと思い、もきさいに入りました。昨年の12月に行われた模擬裁判公演では、来場者のために冤罪について伝えることができたと思います。私達は毎年12月ごろに公演を行っておりますので、ぜひご来場ください。

芸術文化実習

芸術文化実習は、アートに集中できる4日間です！有名画家の名作から、今までの見えないような現代アートまで……。様々な作品を見て、感じ、こころを先生と語り合えます。2日間に7つの館を回り、出会った素敵な作品の数々は、今の自分の感性をより豊かにしています。今年も絶対に行きたい♡

雁部 万智子さん
人間文化学科 3年
文化動感論コース
宮城第一高校

文化財調査実習

3年生の10月に、文化財調査実習で奈良・京都の寺社を巡りました。西大寺のご住職のお話を聞いたり、奈良文化財研究所の方に本館を見せていただいたり、普段はできない経験をしました。実際にその土地を訪れることにより、得るものは多かったです。

BOOK

石崎 翔悟さん
法経政策学科 4年
経済・経営コース
国際金融論演習(山口ゼミ)
東北学院高校

インターンシップ

私は、3年次に参加したインターンシップについてお話しします。単位がもらえるように、第一銀行にある地産銀行に1週間お話し。という条件で、地産銀行に参加しました。5日間という短い期間でしたが、人事の先生や高卒の学生と議論を交わすことができ、就職活動の早い人々と比べ、同僚や先輩から教わる機会も多かった。ぜひ、皆さんもインターンシップには積極的に参加してみてください。

横尾 莉紗さん
人間文化学科 4年
共生人間学コース
地理学専修
天童高校

都市地理学調査実習

自分の足で歩いて、人と話をし、物を食べて、どうやって少しずつ調査地のことを知っていくのがとても楽しいです。フィールドに出るグループワークだからこそ身につくことも多く、実習に参加したことで以前よりも、ものの見方や考え方が広がり、に繋がります。

栗原 美季さん
人間文化学科 3年
文化解釈学コース
山形中央高校

平成27年度 卒業生進路状況

平成28年3月10日現在

学 科 名		卒業 予定者数	進学 予定者数	その他	就職希望 者数 (A)	就職内定者内訳				就職率 B／A
						企 業	公務員	教 員	計 (B)	
人間文化学科	男	37	3	5	29	13	12	0	25	86.2%
	女	79	2	7	70	52	13	1	66	94.3%
	小計	116	5	12	99	66	24	1	91	91.9%
法経政策学科	男	122	4	7	111	64	43	0	107	96.4%
	女	74	0	4	70	42	24	0	66	94.3%
	小計	196	4	11	181	106	67	0	173	95.6%
合 計	男	159	7	12	140	77	55	0	132	94.3%
	女	153	2	11	140	95	36	1	132	94.3%
	計	312	9	23	280	172	91	1	264	94.3%

平成27年度卒業生就職・進学一覧

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
建設業	0	2	6	1
ユアテック			2	
升川建設			1	
成都地所		1		
積水ハウス				1
竹中工務店			1	
鉄建建設			1	
東北電化工業		1		
北造業	1	8	9	2
NECエンベデッドプロダクツ		1		
TPR工業			1	
アイジー工業		1		
イトウ製菓		1		
かわでん	1	1		
サンデンホールディングス		1		
トッパ工業			1	
フルテック			1	
リンナイ			1	
伊藤園			1	
山形航空電子		1		
太平洋セメント			1	
東京インテリア家具			1	
東北エプソン				1
東北パイオニア			1	1
東北パイオニアEG		1		
日清丸紅飼料			1	
日立建機カミーノ		1		
電気・ガス・熱供給・水道業	0	1	1	0
スマートテック			1	
東北電力		1		
情報通信業	2	3	6	3
Future One			1	
OSK		1		
YCC情報システム				1
エヌ・シー・テイ				1
システム情報パートナー		1		
ハitekシステム				1
ワークスアプリケーションズ			1	
東日本放送	1			
東北インフォメーション・システムズ	1			
東北バンキングシステムズ			2	
日本ビジネスシステムズ		1		
日本総合システム			1	
福島民報社			1	
運輸業・郵便業	0	1	0	3
東日本旅客鉄道（JR東日本）				1

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
日本航空				1
日本郵政		1		
郵便局物販サービス				1
卸売業・小売業	3	9	11	2
DCMホームテック		1		
イオンスーパーセンター		1		
ウエルシア薬局				1
カメイ			1	
ガリバーインターナショナル			1	
コンドールテック			1	
ダイユーエイト	2			
ツルハ			1	
とみひろ	1			
ベルブラス		1		
ヤマザワ			1	
やまと			1	
ヨネ			1	
伊徳		1		
岡崎医療			1	
興和		1		
恒和薬品		1		
三菱電機住環境システムズ			1	
西松屋チェーン		2		
東北アストモスガス			1	
日本板硝子			1	
富士貿易				1
野川食肉食品センター		1		
金融業・保険業	2	8	18	22
あおぞら銀行				1
エコスマート			1	
きらやか銀行			1	1
ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング				1
ゆうちょ銀行			1	
ユニバーサル				1
りそな銀行			1	
岩手銀行	1			1
古川信用組合	1			
三井住友海上火災保険				1
山形銀行		2	4	2
七十七銀行		1	3	1
青森銀行				1
石巻信用金庫			1	
荘内銀行		1	2	2
損保ジャパン日本興亜		1		
大和証券			1	
第一生命保険			1	1
鶴岡信用金庫	1			

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
東京海上日動火災保険				1
東邦銀行		1		
東北労働金庫			1	1
日本政策金融公庫			1	1
日本生命保険相互会社				1
農林中央金庫				1
富国生命相互会社				1
北越銀行				1
北日本銀行				1
明治安田生命		1		
野村證券				1
不動産業・物品賃貸業	0	1	1	1
クリエイト礼文		1		
三井不動産リアルティ東北				1
大和リース			1	
学術研究・専門・技術サービス業	0	2	2	1
ホット・ブリッツ		1		
マックス				1
公益財団法人米沢上杉文化振興財団		1		
税理士法人あさひ会計事務所			1	
日本水工設計			1	
生活関連サービス業・広告代理・娯楽業	3	4	5	0
JTB東北			1	
ダイナム			1	
ニラク			1	
フーレイ			1	
ベガスベガス	1		1	
花祭壇		1		
近畿日本ツーリスト東北	1			
星野リゾート・マネジメント	1			
東北博報堂		1		
旅工房		1		
廣済堂		1		
教育・学習支援業	1	3	1	0
グローバルアシスト			1	
ジー・アカデミー		1		
国立大学法人山形大学	1	2		
医療・福祉・社会保険業	1	3	0	3
アースポート		1		
医療法人社団斗南会			1	
一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院			1	
山形健康管理センター		1		
仙台市職員共済組合				1
地方職員共済組合				1
地方独立行政法人宮城県立病院機構				1
複合サービス業	0	1	2	2
JA山形おきたま				1
みやぎ生活協同組合		1		
全国厚生農業協同組合連合会（JA厚生連）				1
大学生活協同組合北海道事業組合			1	
東北自動車協同組合			1	
サービス業（他に分類されないもの）	0	6	2	2
NPO法人ピュアはーと		1		
アイエスエフネット		1		
アトム			1	
カチタス		1		
ネオキャリア		1		
マイナビ				1
新潟総合警備保障		1		
東洋ビルメンテナンス				1
東洋ワークセキュリティ		1	1	
国家公務員	1	2	15	9
海上自衛隊			1	
陸上自衛隊		1	1	
公正取引委員会			1	

業種／就職先・進学先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
関東財務局			1	
東北管区行政評価局				1
東北経済産業局			1	1
東北公安調査局				1
東北財務局			1	
東北防衛局			2	
宮城労働局			1	2
山形労働局		1		1
仙台国税局			1	1
仙台地方検察庁			1	
福島地方検察庁	1			1
仙台法務局			1	1
国税専門官			2	
労働基準監督官			1	
地方公務員	11	11	28	15
山形県職員	1	1	6	2
宮城県職員	1	1		1
茨城県警察		1		
山形県警察		1	2	
岩手県警察			1	
栃木県警察				1
北海道警察				1
墨田区役所		1		
つくば市役所			1	
加美町役場	2			
会津若松市役所			1	
岩沼市役所				1
金沢市役所	1			
山形市役所	3	3	3	2
鹿沼市役所			1	
室蘭市役所				1
酒田市役所			1	
上山市役所		1		1
新潟潟市役所			1	1
新庄市役所			1	1
仙台市役所	1		1	1
多賀城市役所			1	
大館市役所	1			
大崎市役所			1	
長井市役所			1	
東根市役所			1	
日光市役所			1	
名取市役所		1	2	
軽米町役場				1
高畠町役場	1		1	
石川町役場			1	
中山町役場			1	
白鷹町役場				1
富谷町役場		1		
教員	0	1	0	0
福島県講師（中学校・国語）		1		
その他	5	7	7	4
	5	7	7	4
進学	3	2	4	0
国際教養大学大学院			1	
東京大学大学院総合文化研究科	1			
東北大学大学院文学研究科	1	1		
一橋大学大学院経済学研究科			1	
山形大学大学院社会文化システム研究科		1		
龍谷大学大学院実践真宗学研究科	1			
宇都宮大学大学院国際学研究科			1	
中央大学法科大学院			1	

これらの数値は平成28年3月10日現在のものです。

◇前期公開講座 人間文化学科

映画・写真・絵画・文学における ドキュメンタリーとフィクション

日程／平成28年6月2日(木)・6日(月)・13日(月)・20日(月)・23日(木)

人文学部では平成26年度から映像文化研究所を立ち上げ、山形国際ドキュメンタリー映画祭とも連携しつつ、山形から世界へ映像文化の意義を発信しています。本講座では、一般に当然だと思われる映画と写真の記録性、真実性は本当なのかという、もっとも本質的な問いを立て、「ドキュメンタリーとフィクション」の問題に多様な専門家の視点でアプローチします。

◇後期公開講座 法経政策学科

リスク社会と危機管理 —法律・政治・行政の視点から—

日程／平成28年9月～10月の5日間

日本は、あらゆる災害が揃っているという意味で、世界の防災関係者から「災害のショーウィンドウ」と呼ばれています。他方、日本は高度に発展した工業技術社会特有の「リスク社会」の典型であり、さらに、国境を越えたパンデミックの災禍やテロリズムの脅威にも晒されているなど、二重、三重のリスクを背負った社会といえます。本講座では、日本社会のこうした現状を鑑み、法制度と政治・行政の視点から、リスク脆弱社会の現実と課題とを検討します。

▶ 井上達夫先生による学術講演会を開催しました。

2015年10月20日(火)、人文学部学術講演会(共催・山形大学法学会)が開催されました。法哲学者の井上達夫先生(東京大学大学院法学政治学研究科教授)に「正義、法、そして立憲民主主義」とのテーマで講演いただきました。



約200名に及ぶ多数の学生・教職員が来聴しました。異なる価値観を有する異質な人々の共生にとって正義や法はどのような役割を果たせるのかという根本的問題について、熱い語り口で終始聴衆を刺激し続ける講演となりました。

▶ ウィリアム・ボディフォード先生による国際学術講演会を開催しました。

2015年12月14日(月)に「徳川時代における戒律復興運動について」というテーマで、ウィリアム・ボディフォード先生(UCLA教授)による講演会が開催されました。ボディフォード先生はアメリカにおける日本仏教研究の権威の一人ですが、江戸時代における戒律復興運動について話されました。日本仏教といえば、僧侶の妻帯など戒律軽視で有名ですが、それが明治以後の新しい特徴であることが明確になったはずでした。



▶ 吉井文美講師が第2回史学会賞を受賞しました。

吉井文美講師が、第2回史学会賞を受賞しました。論文「『満洲国』創出と門戸開放原則の変容—『条約上の権利』をめぐる攻防—」『史学雑誌』122巻7号(2013年)が、評価されたものです。吉井講師の専門は日本近現代史で、1930年代の日本の中国占領地支配に由来する国際問題と、それが当時の日本外交のあり方に与えた影響について研究しています。今回の受賞論文では、日本の満洲支配に伴って生じた、外交問題を考察しました。



第43回模擬裁判公演について

模擬裁判実行委員会 43代委員長 法経政策学科4年 太田孝平

模擬裁判実行委員会とは人文学部における学生主体の研究機関であり、毎年裁判に関する演劇を行っています。人文学部の学生を中心に100名を超える人員が参加し、公演に向けた「すべて」の活動を学生だけで行っています。

平成27年度は「冤罪」をテーマとした裁判劇を公演しました。冤罪に関する基本的な知識、またシナリオを作る上での見識を深めるため何度も勉強会を開き、裁判所の方の添削を受けながら1年がかりで劇を完成させました。

そして迎えた12月の本番では、地道な広報活動の成果により、歴代最多となる581名ものお客様にご来場いただいた他、テレビや新聞などの地元メディアにも取り上げていただき、反響の大きさに嬉しく思っているところです。



▶ 平成27年度山形大学奨励表彰授賞式が行われました。

2月17日、学生の優秀な成績・功績を称える山形大学奨励表彰の授賞式が行われ、人文学部からは以下の5名の学生および人文学部生が代表を務める1団体が表彰されました。

- ・阿部美鈴さん(法経政策)：東北地区将棋大会での優秀な成績
- ・石井孝志さん(法経政策)：石巻における被災地復興支援活動
- ・市川広樹さん(人間文化)：東北地区の陸上競技大会での優秀な成績
- ・佐藤ゆめさん(人間文化)：「トピタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」第1期生
- ・高階悠輔さん(法経政策)：カンボジア教育支援・国際理解活動
- ・学生広報部YUMI[代表:栗原美季さん(人間文化)]：山形大学の広報活動に貢献



左から、YUMIメンバーの小野寺さん、阿部さん、佐藤さん、石井さん